

【生薬名】菊花 *CHRYSANTHEMI FLOS*

【起源植物】キク *Chrysanthemum morifolium*



【科名】キク科Compositae

【別名】白菊花（甘菊花）、杭菊花（黄菊花）

【薬用部分】頭状花

【主成分】精油

【薬性】気味は甘苦平（微寒）、帰経は肺肝に属す

【効能】●疎散風熱、明目、清熱解毒、平肝陽

●頭痛、めまい、眼疾患、10～15g

●菊茶として飲んでも良い（中国では良く飲まれている）

●風邪の予防、はれもの、瘰癧、呼吸器の炎症、高血圧、二日酔

●消炎、利尿、抗菌

●近年、血圧降下が確認され、動脈硬化・高コレステロール症に応用されている

●菊花の配合された杞菊地黄丸はかすみ目によく効く

【出典】●菊花 味甘、熱を除き風を祛り、頭眩、目走、收涙殊に功あり。（薬性歌）

●菊華、一名節華、味苦平、生川澤、治風頭、頭眩腫痛、目欲脱、涙出、皮膚死肌、惡風濕痺、久服利血氣、輕身耐老延年。（神農本草經）

【備考】●甘菊花（白菊花）は養肝明目の効力強く、肝腎陰虚による視力障害に常用する。

●滁菊花は白菊花の一種で効同じで良質で鎮痛・鎮静作用が強い。

●杭菊花（黄菊花）は疏散風熱の力が強く、外感風熱による頭痛・目の充血などに常用する

【処方例】●釣藤散、杞菊地黄丸

●菊花茶調散、菊花散、侯氏黒散、桑菊飲など